

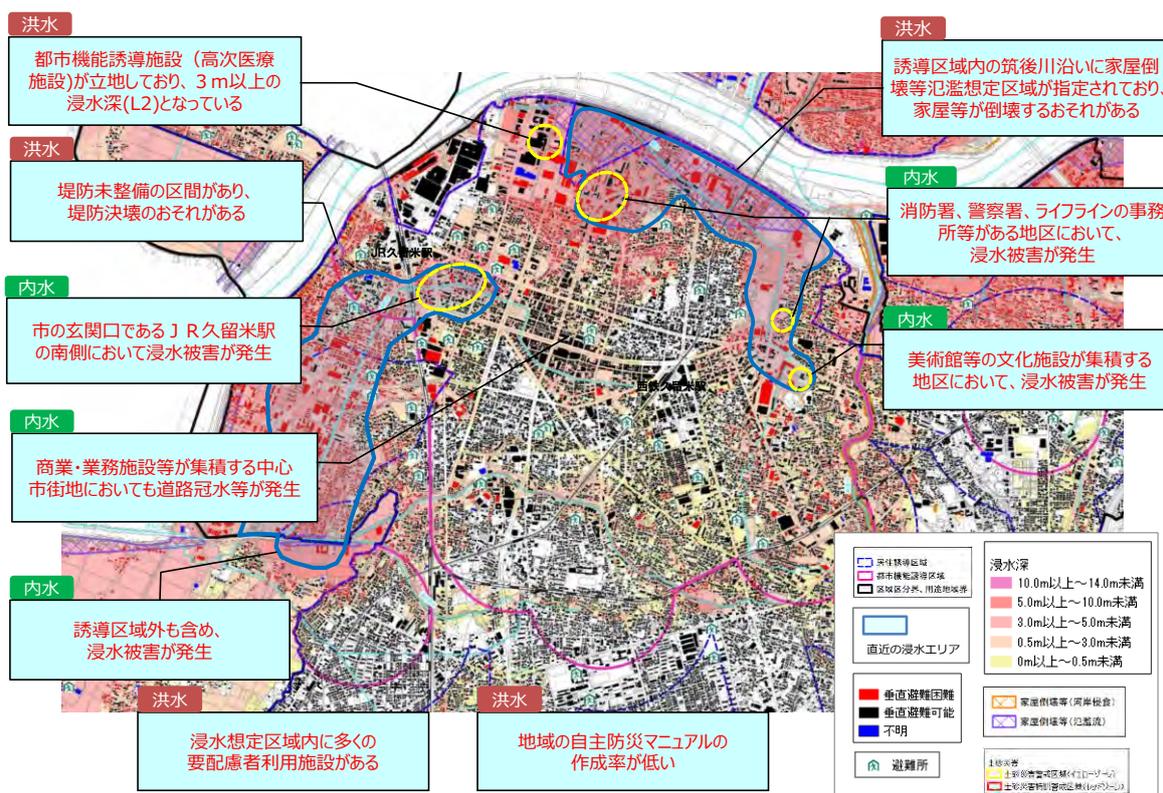
(4) 災害リスクの見える化

- ⑥ 課題の整理(地域ごとの災害リスク分析結果)
- ⑦ 災害リスクの見える化(地図上に記載)

災害リスクの分析結果から、地域ごとの課題を整理し、リスクが存在する場所がわかるように地図上に示します。

(1) 中心拠点地区

主な河川流域：筑後川・筒川・池町川・金丸川・高良川

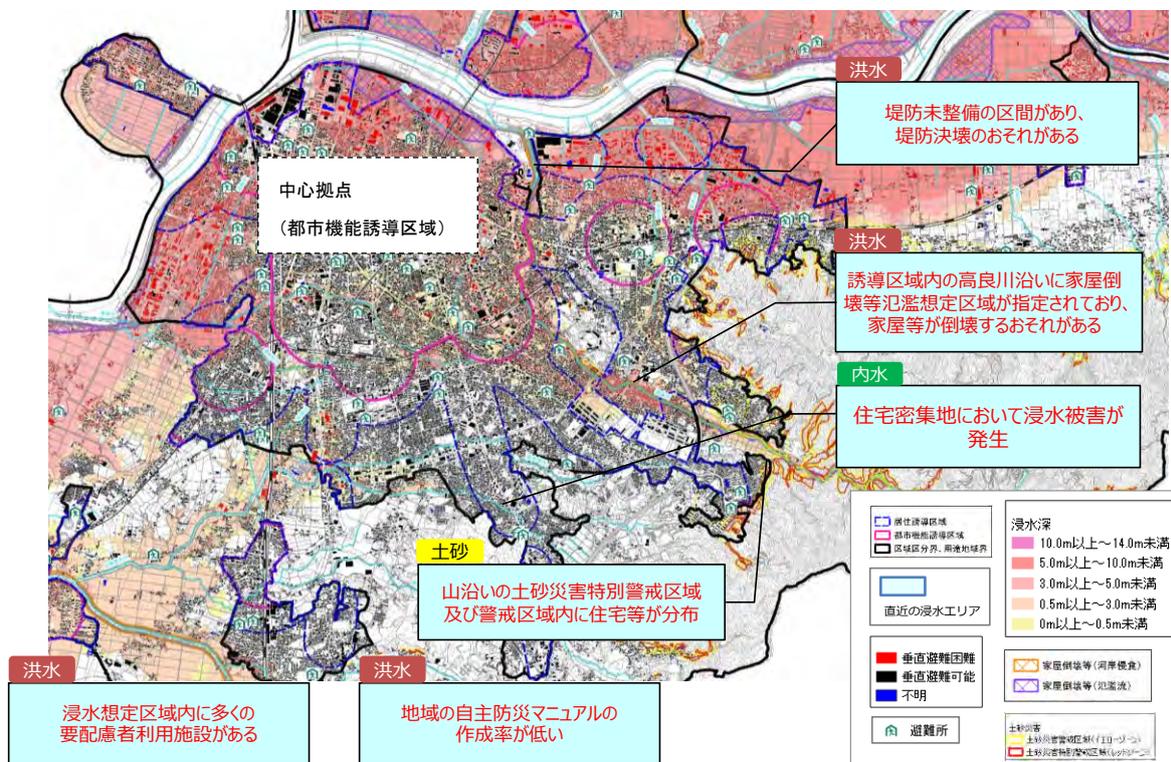


●課題の整理(居住誘導区域及び都市機能誘導区域(以下、誘導区域内))

- 筑後川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は家屋が倒壊するおそれがある。
- 都市機能誘導施設である高次医療施設が立地する地区において、想定最大規模の洪水時に浸水深が3 m以上となる。
- 中心市街地においても近年の豪雨により道路冠水等が発生している。(池町川流域)
- 消防署や警察署など、緊急時に出動する機関が立地している地域において、近年の豪雨により浸水被害が発生している。(筒川流域)
- 美術館等の文化施設が集積する地域において、浸水被害が発生している。(筒川流域)
- 河川の上流部(誘導区域外)において、宅地開発等の進行により雨水流出量が増加し、誘導区域内の家屋への浸水被害の一因となっている。(金丸川流域・池町川流域・筒川流域)

(2) 中心拠点広域地区(中心拠点除く)

主な河川流域： 筑後川・高良川・桃太郎川・上津荒木川・野添川



●課題の整理(誘導区域内)

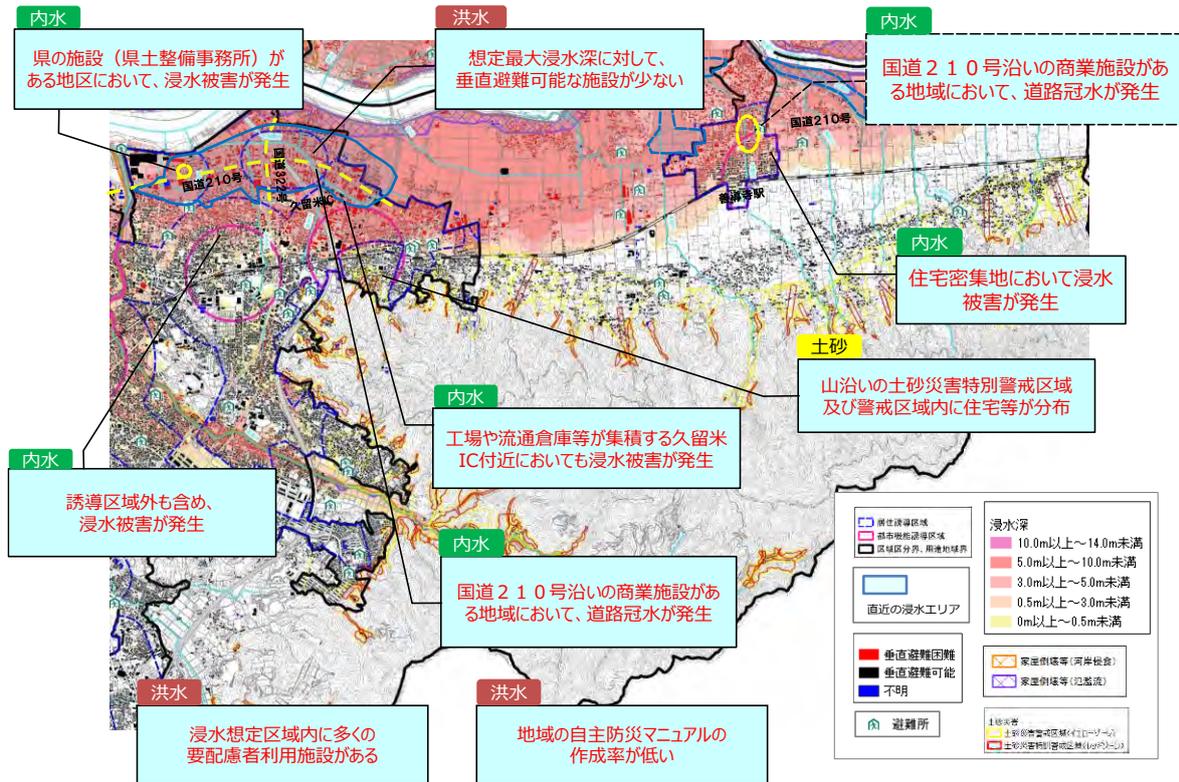
- 高良川沿いに、家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は家屋が倒壊するおそれがある。
- 高良川に近接する地域は、想定最大規模の洪水時における浸水深が5 m以上となっており、垂直避難可能な建築物が少ない。

●課題の整理(誘導区域外)

- 高良川の上流部など、山沿いの土砂災害特別警戒区域及び警戒区域内に住宅等が分布しており、浸水による被害よりも土砂災害の危険性が高い。
- 金丸川、高良川の上流部において、宅地開発等の進行により雨水流出量が増加し、下流域における浸水被害の一因となっている。

(3) 東部地区(久留米IC周辺・善導寺など)

主な河川流域：筑後川・下弓削川・井田川・中谷川
岩井川・江川・不動川・藤町川



●課題の整理(誘導区域内)

○筑後川に近接する地域は、想定最大規模の洪水時に浸水深が5m以上となっており、垂直避難可能な建築物が少ない。

【久留米IC付近】

- 本市の玄関口である久留米IC付近に工場や流通倉庫等の事業所が集積しており、近年の豪雨により浸水被害が発生。(下弓削川流域・岩井川流域)
- 主要な幹線道路である国道210号、国道322号が、近年の豪雨により道路冠水し、長時間通行止めとなっている。(下弓削川流域・中谷川流域)
- 久留米県土整備事務所など、災害時に対応する機関が立地している地域において、近年の豪雨により浸水被害が発生している。(井田川流域)

【善導寺地区(地域生活拠点)】

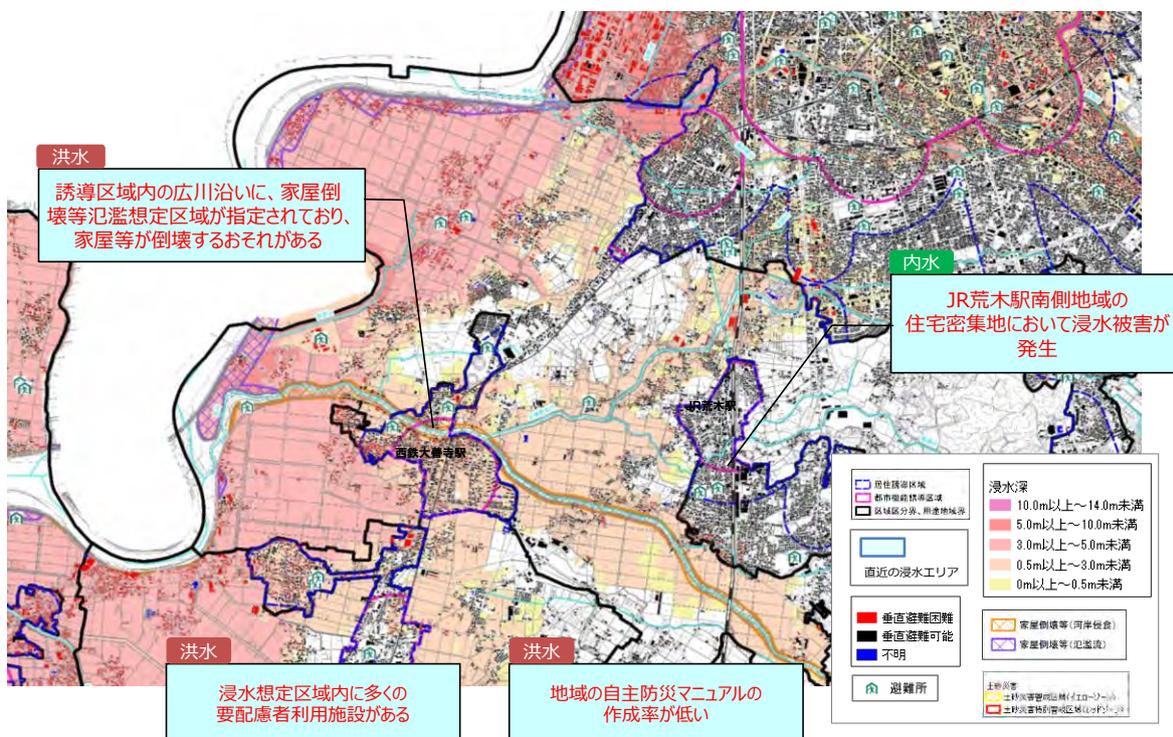
- 国道210号沿いの商業施設等がある地域において、近年の豪雨により道路冠水が発生している。(不動川流域・藤町川流域)

●課題の整理(誘導区域外)

- 筑後川に近接する地域は、想定最大規模の洪水時に浸水深が5m以上となっており、垂直避難可能な建築物が少ない。
- 筑後川、巨瀬川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は家屋が倒壊するおそれがある。
- 山沿いの土砂災害特別警戒区域及び警戒区域内に住宅等が建築されている。

(4) 西部地区(大善寺・荒木など)

主な河川流域：筑後川・広川・野添川・上津荒木川



●課題の整理(誘導区域内)

【大善寺地区(地域生活拠点)】

- 広川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は建築物が倒壊するおそれがある。
- 誘導区域内の西側の地区において、想定最大規模の洪水時に浸水深が3m以上となっており、垂直避難可能な建築物が少ない。

【荒木地区(地域生活拠点)】

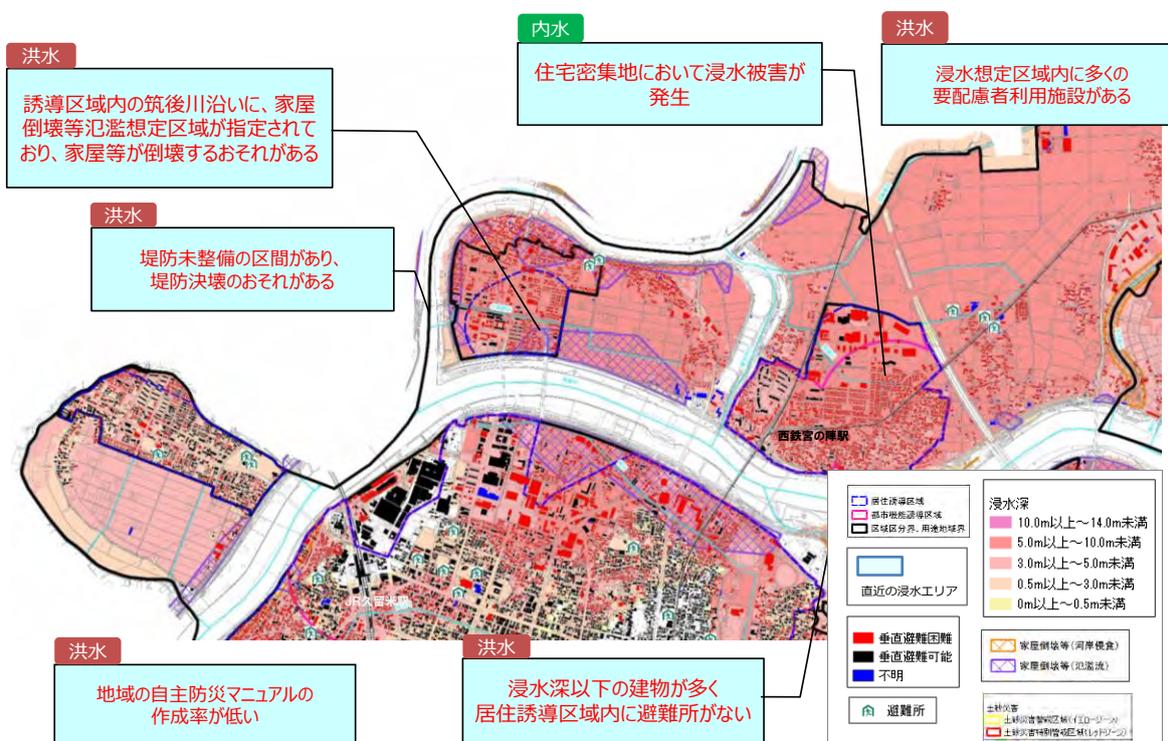
- 想定最大規模の洪水などに対して浸水リスクはないが、荒木駅南側を流れる野添川の浸水被害が発生している。(野添川流域)

●課題の整理(誘導区域外)

- 筑後川に近接する地域は、想定最大規模の洪水時に浸水深が3m以上となっており、垂直避難可能な建築物が少ない。
- 筑後川、広川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は家屋が倒壊するおそれがある。

(5) 北部地区(宮ノ陣・長門石・小森野)

主な河川流域：筑後川・宝満川・新宝満川・小森野川・荒瀬川



●課題の整理(誘導区域内)

- 宮ノ陣、小森野地区は、浸水深5m以上がほとんどであり、垂直避難可能な建築物が少ない。想定浸水深が大きく誘導区域内に避難所が配置されていない。
- 小森野地区の筑後川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は建築物が倒壊するおそれがある。
- 長門石地区の浸水深3m以上の地域は、中高層の共同住宅以外、垂直避難可能な建築物が少ない。

【宮ノ陣地区(地域生活拠点)】

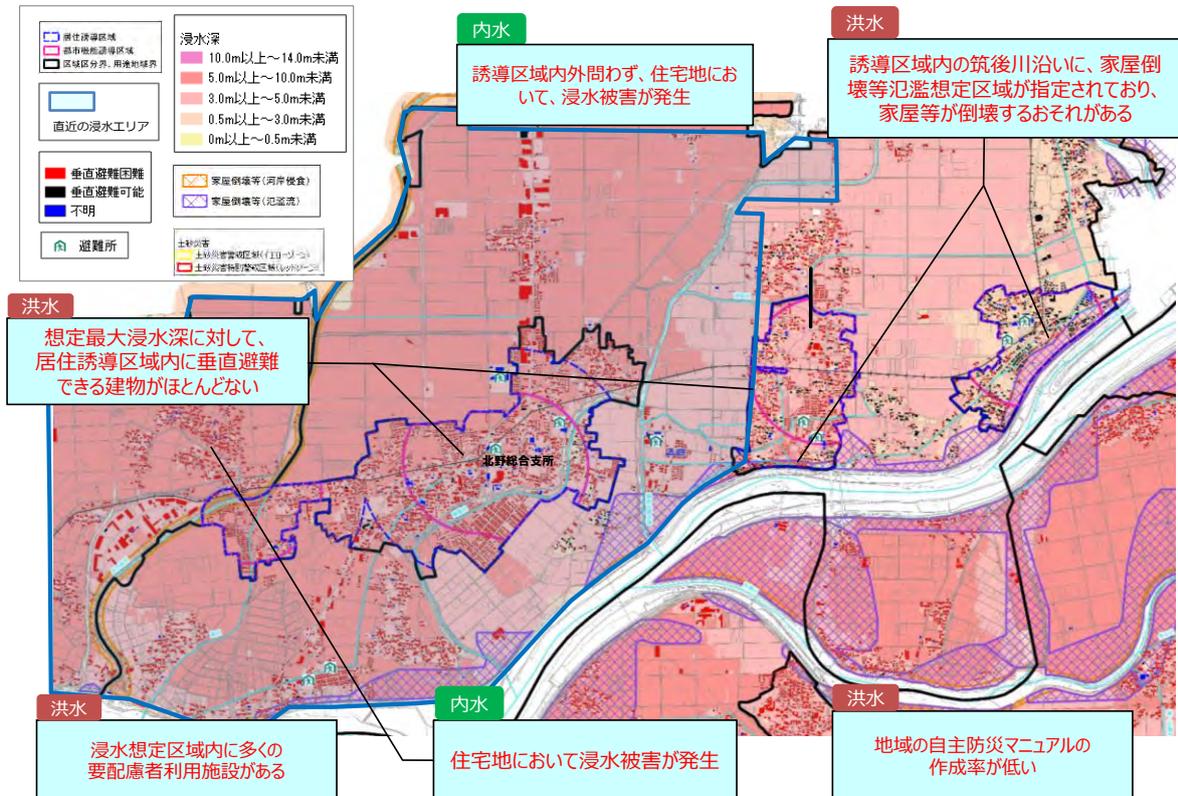
- 誘導区域内に避難所が配置されていない。

●課題の整理(誘導区域外)

- 筑後川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は家屋が倒壊するおそれがある。

(6) 北部地区(北野)

主な河川流域：筑後川・陣屋川・大刀洗川・新川・長池川



●課題の整理(誘導区域内)

- 誘導区域内のほとんどの地区において、浸水深が5 m以上であり、垂直避難可能な建築物が少ない。
- 誘導区域内の筑後川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は建築物が倒壊するおそれがある。

【北野総合支所周辺地区(地域生活拠点)】

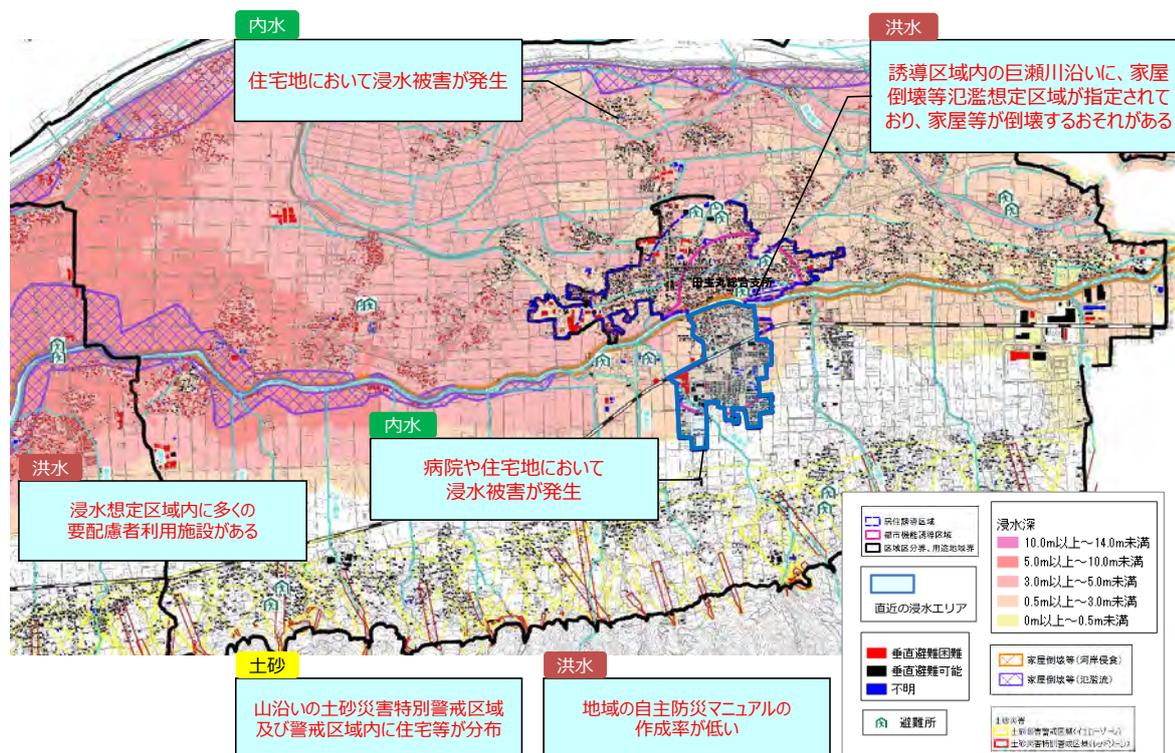
- 総合支所周辺を含む広範囲において、近年の豪雨により浸水被害が発生している。(陣屋川流域・大刀洗川流域)

●課題の整理(誘導区域外)

- 筑後川、巨瀬川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は家屋が倒壊するおそれがある。
- 幹線道路沿いにおいて、宅地開発等の進行により雨水流出量が増加し、浸水被害の一因となっている。

(7) 東部地区(田主丸)

主な河川流域：筑後川、巨瀬川、古川



●課題の整理(誘導区域内)

【田主丸総合支所周辺地区(地域生活拠点)】

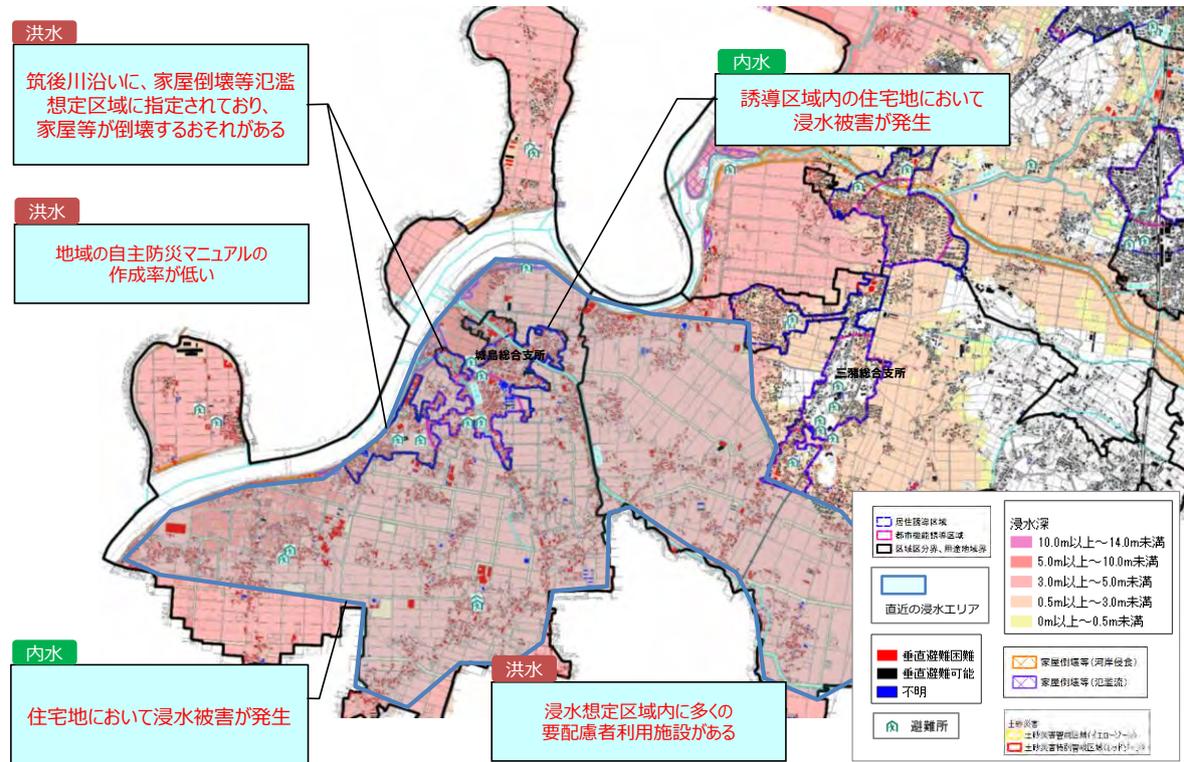
- 巨瀬川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は建築物が倒壊するおそれがある。
- 巨瀬川左岸において、洪水時には常習的に床上・床下浸水が発生している。
- 部分的に想定浸水深が3m以上の指定があり、その地域では垂直避難可能な建築物が少ない。
- JR田主丸駅南側周辺では、田主丸中央病院や住宅地における浸水被害や道路冠水が発生している。

●課題の整理(誘導区域外)

- 筑後川、巨瀬川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は家屋が倒壊するおそれがある。
- 田主丸地区の西側の集落において、想定最大規模の洪水時に浸水深が3m以上5m未満となっており、垂直避難可能な建築物が少ない。
- 山沿いの土砂災害警戒区域及び警戒区域内に住宅等が建築されている。

(8)西部地区(城島・三潞)

主な河川流域：筑後川、山ノ井川、宇田貫川



●課題の整理(誘導区域内)

○筑後川の想定最大規模の洪水よりも、有明海沿岸高潮による浸水の方が影響は大きい。

【城島総合支所周辺地区(地域生活拠点)】

- 筑後川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、想定最大規模の洪水時は建築物が倒壊するおそれがある。
- 総合支所周辺を含む広範囲において、近年の豪雨により浸水被害が発生している。(山ノ井川流域)

【三潞総合支所周辺地区(地域生活拠点)】

- 総合支所や三潞駅周辺は浸水のおそれは低いが、犬塚駅周辺に0.5m以上3m未満の想定浸水深が指定されており、垂直避難困難な建築物が存在する。

●課題の整理(誘導区域外)

- 城島地区の誘導区域外において、想定最大規模の洪水時に浸水深が3m以上5m未満となっており、垂直避難可能な建築物がほとんどない。
- 山ノ井川流域において、宅地開発等の進行により雨水流出量が増加し、下流域における浸水被害の一因となっている。

1章 防災指針とは
2章 災害リスク分析と見える化
3章 防災まちづくりの将来像と取組方針
4章 取組と実施プログラム
5章 目標値